

編集後記

これまでの慣例では、編集委員長は2年1期で終了交代ですので、私はお役ご免になるはずでしたが、井上登美夫新理事長の命で続けることと相成りました。ANMのインパクトファクターが1.386と上がったから？ いえいえ、上がったのは私の力ではなく、投稿していただく論文の質が向上していることと審査を編集委員の先生と査読を受けていただいている先生方でしっかりやっていただいているからです。最近では、国外研究者に査読依頼がでる頻度が多くなっており、益々国際誌としての色彩が強くなっています。海外からの投稿論文も増加しており、それにしがいが掲載論文も海外からの投稿が以前より多くなっていると思います。

国際誌としてANMを今以上に地位を向上させるには、より質の高い論文を国内のみならず海外から投稿していただくこと一点につきます。今も投稿論文数は微増傾向にあります。ジャンプアップしている様子にはなっていません。理由の一つに、ANMが

ページ超過代などの extra charge を取っていることが挙げられると思います。別刷り代以外の数万円もする請求は、ANMの足枷以外の何物でもありません。

私は編集委員長になって以来、ANMの冊子出版を廃止して完全な online journal 化にしたいと提案してきましたが、いくつかの理由で見送られてきました。核医学会が、ANM発行に対して年間約1,000万円の科学研究費を獲得していることを会員諸氏はご存じでしょうか。昨今の不況、東日本大震災の復興資金捻出など、現政権が次年度以降の科学研究費をカットしてくることが予想できます。学会の年間会計15,000万円強のうち雑誌等刊行費は4,300万円強を占めます。online journal 化は、必要経費削減、ひいては学会会計の安全運営に繋がることと想像します。さらに、編集委員長として期待することは、extra charge をなくすことにより、良い論文をANMに読み込むことができるだろうということです。

もうすこし編集委員長をやるようにとの井上理事長の指示は、ANMをonline journal とせよという指示であると私は理解しています。会員諸氏のご理解とお力添えをお願いいたします。

(金沢大学 絹谷 清剛)

核医学編集委員会

委員長：絹谷清剛(金沢大学医薬保健研究域医学系核医学)
 副委員長：佐賀恒夫(放射線医学総合研究所 分子病態イメージング研究プログラム)
 委員：犬伏正幸(放射線医学総合研究所 分子病態イメージング研究プログラム)
 金田朋洋(東北大学病院 放射線診断科)
 河邊讓治(大阪市立大学大学院医学研究科 核医学科)
 河村和紀(放射線医学総合研究所 分子認識研究グループ)
 久慈一英(埼玉医科大学国際医療センター 核医学科)
 坂本攝(獨協医科大学病院 PETセンター)
 田代学(東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター)
 東達也(滋賀県立成人病センター研究所)
 百瀬満(東京女子医科大学 画像診断・核医学科)
 渡部浩司(大阪大学大学院医学系研究科 医薬分子イメージング学寄附講座)

「核医学」第48巻4号 平成23年11月30日 発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 絹谷清剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 (社)日本アイソトープ協会本館3階

発行所 一般社団法人日本核医学会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社海川企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-51-1

電話 (03) 3806-0961(代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 (03) 5226-2791(代) 日本医学広告社